

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 地域福祉課

会議の名称	平成30年度第1回茅野市地域福祉審議会		
開催日時	平成30年8月31日（金）19時～20時30分		
開催場所	市役所議会棟大会議室		
出席者	<p>【委員】 平出委員、竹内委員、功刀委員、戸川委員、長田委員、松山委員、武井委員、戸田委員、林委員、宮下委員、小林委員</p> <p>【事務局】 茅野市長、竹内健康福祉部長、牛山こども部長、五味こども課長、五味幼児教育課長、有賀学校教育課長、今井こども係長、有賀こども係主査、柳澤健康づくり推進課長、小穴健康推進係長、井出地域福祉課長、竹村福祉総務係長、武居福祉総務係担当、小林福祉総務係主査</p>		
欠席者	大久保委員、高木委員		
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
委員	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 諮問</p> <p>5 審議</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 審議会の公開について 本審議会について公開することに決定。</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 第3次茅野市こども・家庭応援計画（案）について 資料により概要説明</p> <p style="margin-left: 20px;">元々は福祉分野計画の母子保健から生まれたもので、第1次計画は孤独の子育てや虐待の問題が話題になっていた時代に作られたもの。その問題を地域で支えるための施設を作ったことが成果となった。第2次計画は、施設を中心に据えて地域で子育てを支えるための取組を進めてきた。第3次計画は、そこに教育分野の計画を取り入れた。これまで、学校でやっているものとして別に考えてきたが、茅野市教育大綱、幼保小の連携等、教育との連携が必要となって来たためである。</p>		

	<p>福祉分野としての視点として、これまで生まれる前から18歳までの計画として考えてきたものに、18から20歳の間が抜け落ちないように、橋渡しの役目となるような継続という視点を取り入れた。</p> <p>第3次計画は、新しいものだけでなく、1次、2次と実施してきた内容の質の向上や不十分だと思われるものの追加を行った。</p>
委員	<p>説明用の資料「分野別計画概要」が分かりやすい。計画書には掲載されるのか。されないのであれば、掲載して欲しい。</p>
事務局	<p>掲載の予定はないが、工夫してみたい。</p>
委員	<p>分野別計画概要の基本理念や目指す将来像の説明文の中の「自分のあり方や評価ができる感情を高め」とある「自分のあり方」とはどんな意味があるのか。</p>
事務局	<p>自分自身のこと。他人と違う、自分。アイデンティティと言えるもの。</p>
委員	<p>「自分のあり方」はあまり使わない言葉。アイデンティティにした方がわかりやすい。</p>
事務局	<p>策定委員の想いを言葉で表現しているので、このままとしたい。</p>
委員	<p>尊重する。</p>
委員	<p>アイデンティティよりは自分のあり方の方がいい。</p>
会長	<p>策定委員の想いもあることから、原案を尊重でよいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
委員	<p>8ページ最終行「一生涯を通して～取組を行います。」この対象はどのような人たちの事か。</p> <p>また、計画書内にワンポイントやコラムや用語説明があって、分かりやすくいいと思う。</p>
事務局	<p>18歳までの計画なので、そこで支援が途切れてしまわないように関係機関へつなぐことを考えている。</p>
委員	<p>策定委員会の中では、障害者、引きこもりなど支援が必要な人を想定している。</p>

事務局	支援を必要とする人と事業をつなげていきたい。
委員	46 ページにネウボラのコラムがあるが、本文の中にネウボラという言葉が出てこないのはなぜか。 48 ページ、目標指標 1 育てにくさについて、どのように数値の把握をしているのか。 コミュニティスクールと学校運営委員会は同じ組織ではないのか。
事務局	ネウボラについて、本文中の記載はない。ネウボラは具体的な計画とはなっていないが、策定委員会の 0 1 2 3 歳部会の中で、ネウボラへの願いがあったため、コラムとして取り上げている。 育てにくさの指標については、乳幼児健診アンケートからの数値を利用している。
事務局	コミュニティスクールと学校運営委員会について、学校運営委員会の方が以前からあったものとなるが、目的は同じであることから、今後、徐々にコミュニティスクールに統合していきたい。今は過渡期にあると考えている。
委員	50 ページ、指標学校運営委員会の開催回数の増について、指標数値が倍近くとなっているが、関わる人の負担増とならないか。また、PTAとの関係はどうなるのか。
事務局	指標については、回数を見ると負担感を感じるかもしれないが、長時間でなくともいいので、関わりの回数を増やしていくという意味がある。 PTAは、学校運営委員会のメンバーとなっている。他のメンバーと違うのは、役員が単年度で変わってしまうところである。PTAの役員が終わった後も、地域の子育てに関わりを持ち続けてもらえることを願っている。
委員	良くまとめてあるが、この冊子は各家庭には届かないと思うが、各家庭に概要版が届くのか。
事務局	概要版は作成し、回覧で周知を行う予定である。第 5 次総合計画のルールとして、計画書、概要版ともに各施設に置いて、市民の目に触れるようにしていきたい。
委員	子育てに関心を持たない親に、どう切り込んでいくのが問題。子ども食堂にこども課の職員が参加して、様々な人に訴えて欲しい。

委員	1次計画からの課題の一つ、市民側の課題である。方策はあるのか。本来は、地区の子育て部会の活動でもあると思うが。
事務局	地域ぐるみの子育て支援と推進、子育て部会を中心にした活動、コミュニティスクール、身近な場所での活動、PTA、保護者会等で子育てに関わる気運を上げていきたい。
委員	子育てに関わる活動は、すでに多くの団体で行っている。それが、どんぐりプランという意識がないだけ。何かするときどんぐりプランの旗ではないが、その意識づけだけでいいという気がする。新たなコミュニティスクールも、どんぐりプランにつながっていることを伝えていきたい。
委員	4ページ(3)②「区・自治会へと広がるのが理想です。」具体的には何を想定しているのか。 ③「地域の高齢者などに活躍していただける仕組みづくりが必要です。」とはどのような活躍を想定しているのか。
事務局	②については、56ページ、施策目標3、施策2、施策の柱2地域の特徴を生かした子どもの居場所づくりにおいて、PTAや保護者会、子ども会育成会等、生活に近い場所での活動を想定している。また、54ページ、施策目標3、施策1、施策の柱2子育てに関わる人の仕組みづくりの中の人材バンクの活用も想定している。
事務局	③については、50ページ、施策目標3、施策1地域で支える子育て応援の充実、施策の柱1魅力あるコミュニティスクールの実施の中で、コミュニティスクールへの参加や、地域での見守りボランティア等を想定している。
委員	24ページ、指標小学校1年生における学校生活の満足度の増について、現状95%に対して目標100%にしない理由、結果から見て想定できないこと、この5%に何を見ているのか。 26ページ、指標児童生徒の学校に対する満足度の増も、現状87%で目標95%だが、どうやってその数値を図っていくのか。
事務局	どちらの指標についても、数値は子ども、親、教員に対して毎年行っているアンケート結果を使っている。 100%にしない理由は、児童生徒の多様性を認めるためのもので、全員が、学校が好きだよとはならない。現状の数値を維持することが重要であ

	<p>ると考えているため 95%で設定している。26 ページは全体で 87%になる。学年が上がると、いろんな考えやつまずいたりして数値が下がる。しかし、数値を伸ばしていけると考えているので、1年生の 95%に近づけるよう、願いを込めた数値に設定している。</p>
委員	<p>残り 5%の部分は、多様性を見ているという理解でよいか。</p>
事務局	<p>その理解でよい。</p>
委員	<p>23 ページ、味噌作りの事例について、作り方の材料に塩が入っていない。麴と大豆だけでは味噌にならないので塩を追加してほしい。</p>
事務局	<p>追加する。</p>
委員	<p>31 ページ、指標学校トイレの様式化率の増について、学校の洋式化の要望はあると感じるが、計画的にすれば予算の問題もあるが、目標値をもう少し上げる要素はあるのか。</p>
事務局	<p>計画は、第 1 次茅野市小中学校管理計画で示されているものである。トイレの洋式化率は、全国平均でも 50%に欠ける数値であるので、茅野市では 50%を掲げている。建替えの他、リノベーションも随時行っていく中で、実際は 50%を超えた数値になっていくと考えている。中には和式でないと肌がふれるので嫌だというお子さんもいるので、100%にはならない。</p>
委員	<p>後ろにアンケートがついているのでいいと思う。その中で経済的な課題、医療や学校での費用の問題、予算が絡むので要望が高くてもすぐに対応できないと思うが、思いがあれば聞きたい。</p>
事務局	<p>経済的に対する問題への支援は、39 ページ、施策目標 2、施策 1、施策の柱②で、今ある制度の活用を行っていきたい。</p>
委員	<p>国の政策で、学校に係る費用の無償化などの絡みもあると思うが、市だけで何かできる問題ではないが、できるだけ希望を見いだせるようにしてほしいと思い、その思いを聞きたかった。</p>
事務局	<p>子どもの貧困問題について、解決への努力をしていきたい。</p>
委員	<p>41 ページ、指標一時保育利用率の増について、ニーズがある場合の今後の展開が具体的にあれば教えていただきたい。</p>

	47 ページ、指標乳幼児健診受診率の増について、現状 99%を 100%にするとあるが、残り 1%をどのように上げていくのか。
事務局	現在は公立 3 か所、定員 6 名で保育を実施している。利用者の人数を見ていく中で、利用が多ければ実施場所の拡大を考えてきたい。
事務局	1%を上げる方法として、健診を受けない家庭への訪問等でフォローをしている。健診に来られない理由としては、仕事を休めない親が多い。保育園でのフォロー等も考え 100%を目指していきたい。
委員	子育てで、外れてしまう子がいるのはベースの部分がずれてしまうという心配がある。ぜひ 100%、見守りを受けられるように対応してほしい。
委員	計画書の中に事例が多く掲載されている。掲載しているだけでは利用価値が少ない。市民に事例を広報紙に掲載するなどして関心を高めていけるように方法を考えてほしい。
委員	親育ちについて、関心の無い親に対する方策をどう考えているか。
事務局	苦慮している。PR の機会を逃さず、伝えていきたい。
委員	1 日保育士体験はいい施策だと思う。事業の広げ方として、先生が言っても参加しないので、子どもから保育園に来てほしいと親に言ってもらう方法もある。保護者会の雰囲気作り、園長先生たちとの情報連携、地道な努力が必要だと感じている。
委員	4 ページ、(3) ③で、子どもの居場所には多くの大人の関わりが重要で、地域のサポーター、ボランティアを増やしていくためにどのようにしていくのか考えを聞きたい。
事務局	54 ページ施策目標 3、施策 1、施策の柱 2 子育てに関わる人の仕組みづくりにおいて、ネットワーク作り、人材バンク作りを通して徐々に関わりを増やしていきたい。
委員	48 ページ、文中、指標の「育てにくさを感じる」は、「育児困難」だと思うが、一般的に使用するのか。
事務局	国の母子保健計画に基づいているので、その言葉を使用している。
委員	ネウボラの文字を 5 ページの⑨に発見したので、そこにつながりを追

事務局

記してほしい。

検証の中に書かれているので、ここに追記したい。

諮問については、了承し、審議の中で出された意見を尊重し、十分に検討
いただくことで答申することに決定。

6 報告事項

(1) 茅野市自殺対策計画の策定について

7 答申

(会長から市長へ答申)

8 閉会